

## 「中国学生派遣プログラム参加報告書」

京都大学経済学研究科 博士1回 下門直人

### ① 学習成果

人民大学とのジョイントセミナーにおいて、京都大学側からの一人として研究報告を行う機会を得た。英語で研究報告することは今回のセミナーが初めてであったので報告の準備をしっかりと行い、大きな失敗をすることなく終えることができた。しかし今後の課題として、質疑応答など英語でのアカデミックな議論を積極的に行えるように英語のスピーキング能力を鍛える必要がある。このプログラムに参加し研究報告や議論を通じて、現在の研究者に求められている国際的な共同研究や国際学会での報告といったことを積極的に行っていく必要があることを改めて認識した。また、異分野や他国の学生や研究者との交流を通じて、自分の研究を相対化することができ、研究の幅が広がることを実感することができた。

### ② 海外での経験

プログラム参加者の出身地やバックグラウンドが多様であったため、派遣先の中国だけでなくアジア圏の国々の人々の価値観や生活様式、文化についての理解が深まった。

### ③ プログラム内容

このプログラムでは、人民大学の授業の受講、京都大学と人民大学の学生によるジョイントセミナー、中国の政府機関や民間企業への見学が実施された。それ以外にもエクスカージョンとして、万里の長城と故宮の見学にも参加した。

人民大学の授業では、金融の観点から中国の経済成長を導いてきた経済システムについて学び、現在の中国経済が抱えている問題や課題について率直な意見を聞くことができた。ジョイントセミナーでは京都大学と人民大学の学生が二名ずつ研究報告を行った。京都大学側の一人名として私も研究報告を行った。また中国の環境関連の政府機関や金融関連の企業と工作機械メーカーへの見学を行った。政府機関では、現在中国がどのような環境問題を抱え、どのように解決しようとしているのか説明を受けた。民間企業への見学では、特に工作機械メーカーの話に興味深かった。技術的なキャッチアップの状況や、マーケティング活動、販路開拓のための営業について聞くことができ、中国ローカルメーカーのリアルな現場の状況について理解を深めることができた。

### ① 進路への影響

研究者として国際化が強く求められていることが認識でき、今後も企業調査や研究報告を通じて研究を進展させていくために研究のフィールドを積極的に国外にも広げていこうと考えている。自分の研究とは他分野の研究者と研究交流ができ、今後の研究を進めていく上で非常に刺激となった。今後もこのようなプログラムがあればぜひ活用したい。